



定年退職なさる先生からのメッセージ

回想

山口 榮

在職九カ年を回顧して欣快に思うことの一つは、平成十七年度春学期から今年度春学期まで、林正子先生と二人掛りで担当した教科「総合科目」の授業で、中国近代に於る白話文学運動の口火をきった人として知られている中国のリベラリスト胡適について講述できたことである。

当初、この教科の授業題目・内容・方法・役割分担等をどのように決めたら良いのか戸惑ったが、林先生のお言葉により、私が専ら胡適について講述し、林先生は胡適の活躍した時代背景・歴史事象等を説いて下さる方針が定まった。

また、林先生は「総合科目」における冠講座の申請を行ない、胡適その人を御存知の元桜美林大学教授羅濠明先生を二度程講師として招聘し、胡適の人品、父母、安徽省の郷里、幼少期に受けた教育と訓育、上海遊学時期・アメリカ留学時期のようす、五四運動時期のようす等をお話し頂いて下さり、学生たちは親しみ易く臨場感のあるお話しに深い感銘を受けたようであった。

私の一連の講述のうち、アメリカ留学中の胡適の母および許嫁の江冬秀やコーネル康奈爾大学地質学教授の次女ウイリアムズ韋蓮司女

士との交友を講義題目とし、旧中国の婚姻制度・女子教育、纏足の風習等に関わりのあることに言及した際には、学生からこれらについての質問が少なからずあり、これに対し、林先生が関西中国女性史研究会編『中国女性史入門』京都 人文書院 二〇〇五年刊の「父母の命に従う」旧中国の婚姻、孟母三遷の話の載っている前漢末の劉向の『列女伝』や三従四徳を説いている後漢の班昭（曹大家）の『女誡』などの女子教育書、明の時代から一般化したという「才能のないのが女子の徳である」との観念等を解説している箇所を開示し、応答して下さったことが印象的であった。

因みに、胡適の女子教育・女子問題に関わりのある論説には、「貞操問題」（『新青年』第五卷第一号 一九一八・七・一五）、「^{アメリカ}美国的婦人」（『新青年』第五卷第三号 一九一八・九・一五）、「論貞操問題——答藍志先」（『胡適文存』一集卷四 一九一九・四・作、一九二二・一二・刊）、「女子解放從那裏做起」（『星期評論』第八号 一九一九・七・二七）、「大学開女禁の問題」（『少年中国』第一卷第四期 一九一九・一〇・一五）、「李超伝」（『晨报』一九一九・一二・一〇三）、「中国歴史上婦女的地位」（『胡適演講集録』河北人民出版社 一九九九・一・刊 一九三二年在天津英文講演録訳文）等がある。

右のうち、「^{アメリカ}美国的婦人」をみると、文中に、中国の婦人は良妻賢母になることをよしと考えているが、アメリカの婦人は、もとよりそれはよい、しかし、自分は堂々たる一人の人であり、社会的になすべき事、果たすべき責任があると考え、自立心が強く、男子も女子も同じく人であり、自主独立の人であらねばならないと考えるのである。韋蓮司女士はまさにこの自主独立の人である旨述べているところがある。

胡適の往時の中国に於る女子教育・女子問題に関する論説についての研究は私としては遅きに失する感があるが、これからよく読んでみようと思う。

山口 榮 (やまぐちさかえ)



生年月日 (出生地)

一九三七年十二月一日 (広島県賀茂郡三津口町)

学歴

一九六一年三月 広島大学文学部史学科東洋史学専攻卒業
一九九七年三月 岡山大学大学院文化科学研究科後期博士課程修了 博士(学術)

職歴

一九六一年四月 学校法人広島英数学館教諭
一九六二年四月 学校法人加計学園岡山電機工業高等学校教諭
(一九六四・二、岡山理科大学付属高等学校と校名改称)
一九七二年四月 学校法人高梁学園順正短期大学講師
一九七三年四月 助教昇格
一九七六年四月 教授昇格
一九七八年八月 文部省初等中等教育局教科書調査官(社会科)
一九八六年四月 文部省初等中等教育局主任教科書調査官(世界史)
一九九一年四月 学校法人高梁学園吉備国際大学社会学部教授
一九九八年四月 吉備国際大学大学院社会学研究科修士課程教授(兼任)
一九九九年四月 学校法人跡見学園跡見学園女子大学文学部教授
(現在に至る)

主要業績

【著書】

『胡適思想の研究』(言叢社、二〇〇〇・二刊)

【論文】

「胡適の『科学与人生観』序」(跡見学園女子大学文化学会『フォーラム』第二十号、二〇〇二・三刊所収)
「胡適の『嘗試集』」(跡見学園女子大学『人文学フォーラム』第二号、二〇〇四・三刊所収)
「東西文化問題——中国百五十年の思索——」(跡見学園女子大学『人文学フォーラム』第三号、二〇〇五・三刊所収)
「胡適の『墨経新詁』」(『藝林』第五四卷第一号、二〇〇五・四刊所収)
「胡適の採葉——T・H・グリーンンの思想との出会い——」(『イギリス理想主義研究年報』第三号、二〇〇七・九刊所収)